

用期間を8日間とした。

2. 結果と考察

ハマフエフキを大型水槽で種苗生産するのは今回が初めてであるが大量採卵は可能になったものの、初期餌料の量的確保の取り組みが遅れ、結果的には地元産のカキ sp を使用せざるを得なくなった。1日あたりのカキ幼生投与量は90~180万個の範囲内で、飼育水1ccあたり0.03~0.06個程度の給餌となり餌料不足が原因となってふ化後11日目では10%の生残率となっている。

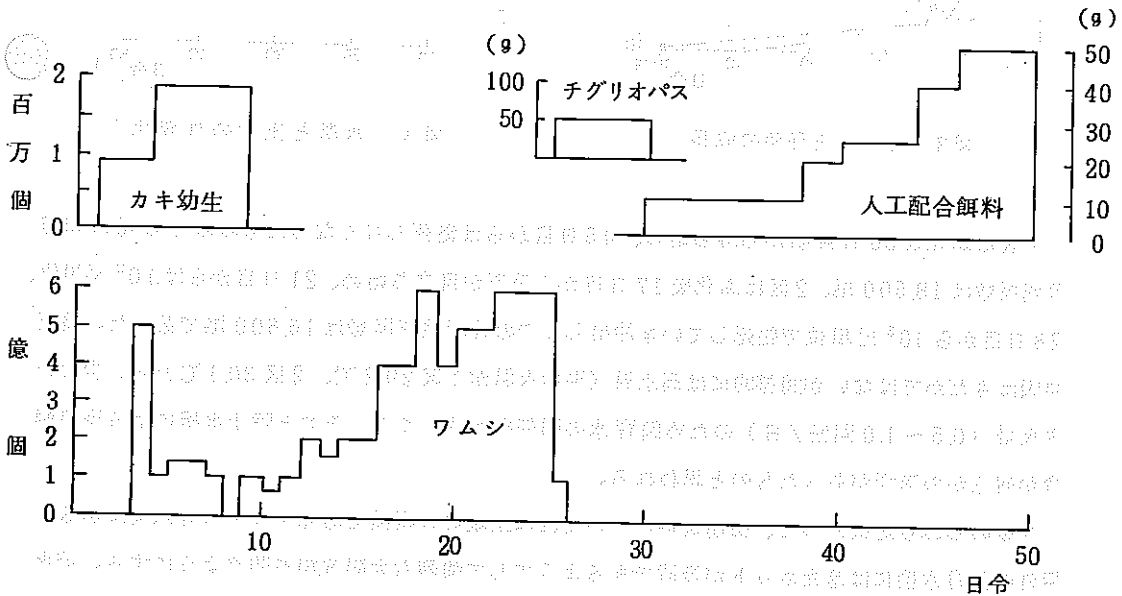


図2 餌料系列と投餌量(60t 1区)

ワムシは止水期間中、 $1 \sim 2 \times 10^8$ 個、流水期間中は $4 \sim 6 \times 10^8$ 個を給餌することができ、仔魚数も低密度となったため餌料不足はなくふ化後25日目には12~15mm程度に成長し、沖出し可能な大きさとなった。しかし海面の網生簀にはミナミクロダイを収容してあるため、ミナミクロダイを放流するまでの期間は陸上水槽で継続飼育を余儀なくされた。

表6 60t水槽による飼育結果

区分	飼育日数	取り揚げ尾数	歩留り	平均全長
	日	尾	%	mm
1区	50	2,500	0.39	37.5
2区	38	1,500	0.21	25.4